

資料 合同ヒアリングにおける主な意見・話題等

1. 学外実習について

カテゴリー	北海道	関東	中部	近畿
考古学実習	・聴覚障害学生の情報保障	・全盲学生の発掘作業の手伝い、形等確認		
学芸員実習				・博物館テイク派遣
病院実習		・読唇に対する配慮、実技での聴覚障害学生への配慮、工夫 ・患者への説明、同意	・コンサルテーション ・事後ストレスケア ・附属病院での指導 ・関連病院の受け入れ ・里親制度とサポート	・実習支援、看護実習のコーディネート ・記録用のTA追加 ・情報共有、卒後対応
社会福祉実習	・支援内容の苦勞	・意思表示がない		・割当、ヒアリング
臨床実習		・スクールカウンセリング実習でのトラブル		
教育実習	・学外要約筆記団体によるサポート ・実習先への配慮願	・情報共有連絡会の設置、内容の共有、実習内容の調整	・受け入れへの調整 ・附属校での実習優先 ・附属校の利用 ・聞き取り、調整 ・様々な学生への対応	・自己開示 ・障害を開示しない学生へのクレーム対応
農場実習	・親御の理解			
フィールドワーク	・教員と施設の調整 ・支援依頼と保険			
実習への移動	・福祉車両、家族送迎		・障害学生支援援助金	
実習先の選定・配慮	・慢性疾患の受診対応できる場所への選定	・問い合わせ、実習先訪問、実習イメージの形成 ・使用施設の配慮	・先行配置、信頼関係の構築、期間調整 ・受入依頼、事前訪問 ・附属校との打ち合わせ	・実習を拒む例への対応 ・筋ジムの学生の実習先
実習先の理解	・農業高校の実習受入、高校の先生の協力			
インターン	・学内図書館でのインターンシップ実施		・工学部での単位認定をするインターンシップ	・発達の方の就職支援的なインターンシップ
学外講座	・学外の支援への理解			
謝金	・謝金の所在 ・交通費の話し合い	・サービス利用時のコストの負担	・一般校に配当された際の支援に関する課題	・国際学会の支援者、支援費用
支援学生	・テイカーの確保 ・炎天下での支援			
遠隔情報保障	・遠隔情報保障			・スマートフォンを用いた支援
宿泊での実習	・宿泊での支援や費用 ・宿泊実習の介助			・泊まり込みでの長期間実習の合理的配慮、調整
介助	・実習中の介助支援		・実習先でのトイレ介助	
評価	・実習日誌の課題			
障害の公表	・先生への対応依頼 ・配慮願作成、開示 ・実習先の開拓		・障害学生実習体験交流会での障害学生の配慮、工夫に関する情報伝授	
対応	・実習拒否への対応	・情報共有会の設置と対応、調整の可能性の検討、謝罪フォーマットの作成、新規開拓	・学外学習での移動支援 ・性別違和への配慮 ・女性装、通称名の許可 ・Xジェンダーへの呼称	

カテゴリー	北海道	関東	中部	近畿
判断プロセス		・情報を総合して勘案し、判断すること		
障害学生本人の課題		・他の学生との区別や指導に関する戸惑い、迷い	・実習前の配慮のお願い ・看護の実習先での課題 ・就職指導での連携、キャリアカウンセラーへの就職指導依頼 ・必要に応じた話し合い ・進路のカウンセリング	・クレームへの謝罪、アフターフォロー
開拓		・実習受入依頼書		
留学		・全盲学生の留学支援 ・ASD学生の留学中支援 ・留学と代替科目履修		
国際学会			・学会発表を近場に変更	・国際学会での支援
海外実習				・海外実習支援、国内実習への代替
連携				・連携大学、現地通訳

2. 実技・実習支援について

カテゴリー	北海道	関東	中部	近畿
理工系	・危険度のある実習実験の告知	・車いす利用者の実験での配慮 ・発達障害の困難を軽減する配慮 ・実験の要点の事前説明	・実験での手順書の作成、個別実験への変更 ・実験でのTA制度 ・ペースメーカー学生 ・視覚認知の低下した学生への補助対応 ・実験データ共有 ・TA補助、転倒用防止の備品の設置	・実験班の調整 ・脊損の学生の実験対応 ・危険な化学物質と取扱器具 ・かつてにやるとのことまで進めようとする ・実験でのサポーターの代替実施
医療系		・乱聴に対する電子血圧計の特別許可		
音楽系		・全盲の学生への配慮	・聴覚障害学生の音楽の授業の評価	
体育系	・車いす学生の代替対応、聴覚障害学生への体育の先生の配慮 ・アダプテッドクラスでの体育実技 ・健康管理カードとEPIの全員配布、できる範囲でのトレーニング、レポートの作成	・発作時の対応 ・ブラインドサッカーなどを特別にコースに組み込む ・身体を学ぶ科目の設置、安全性の確保 ・障害支援、教育に精通した教員の配置、障害学生への指導方法の確立 ・代替科目としての座学	・障害者スポーツ、アダプテッド・スポーツのクラスでの交流 ・座学の授業、アダプテッド・スポーツ ・アダプテッドコースの開設、レポート等代替評価 ・体育の授業の代替措置、授業の工夫	・座学だけで取れるという体育科目の設置 ・アダプテッドコースの実施
英語系			・聴覚障害クラスの設置 ・英語授業のテイクの工夫、UDトーク試行中	・アクティブラーニングが多い、配慮が足りないカリキュラム
情報処理系		・画面読みナビ、コマンドのアシスト	・情報機器の操作に関する教室設備の調整	
農業系	・危険薬品使用時の事前伝達、リストの配布		・同意書の作成、受取	
配慮文書	・配慮文書の配布、パンフレットの作成 ・授業欠席への配慮			
移動支援		・肢体不自由学生の荷物持ち		

カテゴリー	北海道	関東	中部	近畿
ゼミ演習	<ul style="list-style-type: none"> ・テイク配置、意識化 ・聴覚障害本人が読唇できるための座席配慮 ・パソコンテイク内容のスクリーン表示 ・上級学生の支援参加 ・ワイヤレス使用 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の心理的な負担の軽減への工夫、配慮 ・中等度の学生のための小冊子作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害学生の支援、ゼミ時の手話通訳の派遣 ・聴覚障害学生への支援 ・少ない謝金での対応、UDトークの試行 ・UDトークの取り入れ 	
宿泊研修		<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊研修でのSAの増員 ・屋外実習でのTAの増加、別の課題の提示 		
環境		<ul style="list-style-type: none"> ・性同一性障害の学生の着替えやロッカーの問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす対応の机の設置、ハード面の調整 ・ペースメーカーのためのハザードマップ作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害の学生のサポート ・車いすの子の実験場面での機器使用
評価		<ul style="list-style-type: none"> ・追加レポート ・レポートの期限内未提出時の教員の判断、評価 		<ul style="list-style-type: none"> ・筋ジスの学生の授業欠席、レポート対応
支援学生		<ul style="list-style-type: none"> ・サポート学生へのねぎらい ・システムの不完全、サポーター交流会等の開催 ・サポーターの研修受講 		<ul style="list-style-type: none"> ・実験実習でTAの配置 ・聴覚障害学生の欠席時のノートテイク ・TAが見つからない
トイレ支援			<ul style="list-style-type: none"> ・筋ジストロフィー学生のトイレ支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事とトイレ介助 ・脊損学生のおむつ対応
保険			<ul style="list-style-type: none"> ・障害学生の事故と保険、危機管理の徹底 ・ボランティア活動保険 	
ドクターと支援			<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ介助の必要な学生と研究者支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドクターの実験補助と予算 ・ドクターへの支援予算

3. 地域ネットワークについて

カテゴリー	北海道	関東	中部	近畿
就労関係		<ul style="list-style-type: none"> ・障害者職業センターでの職業適性検査 ・看護系で難聴の学生を受け入れている大学とのアクション ・障害のある学生を中心としたスタディツアー ・アウトリーチの会社の来学、研修等の参画 	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市のりんくすとのコラボレーション ・発達障害者支援センターでの自立プログラムの作成 ・民間の就労移行支援事業所とのつながり ・愛知県の就労移行支援ボックス、LITALICOによる就労移行支援事業者連絡協議会の立ち上げ ・障害者職業センターの活用 ・ヤング・ジョブ・あいち ・就職先の障害者支援に関する情報の混乱 ・障害者の支援に強い外部の講師の雇用 	<ul style="list-style-type: none"> ・すいせい、クローバーとの連携 ・地域の就労移行の支援機関、発達障害者支援センターとの連携
メーリングリスト	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい学生支援ネットワークメーリングリスト ・メーリングリストへの参加と関係づくり 			<ul style="list-style-type: none"> ・国立大学のネットワークでのメーリングリスト
環境		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちとのコラボレーション、大学のアクセシブルなものの使用 		

カテゴリー	北海道	関東	中部	近畿
地域ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> 札幌圏の大学、地域の当事者の団体とのエンパワメント研修会 地域ネットワークの呼びかけ 北海道障がい学生支援ネットワークの立ち上げ 専従スタッフのネットワークへの積極的関与 	<ul style="list-style-type: none"> 多摩就労支援ネットワーク 大学間連携の単位互換、支援担当者のつながり 身近の大学同士でのシェアリング 	<ul style="list-style-type: none"> 県内で大学間の障害学生支援のネットワークがない 就活のソーシャルスキルの出前講座 岐阜ネットワーク大学コンソーシアム 知多地域の就労支援を考える会 	<ul style="list-style-type: none"> 関西学院大学地域ネットワーク (KSSK) 関西障害学生支援担当者懇談会と近畿地区の障害学生支援協会 KSSKへの加入 日本学生支援機構京都支部から京都を中心としたネットワークの発足

4. 体制整備について

カテゴリー	北海道	関東	中部	近畿
各大学の体制	<ul style="list-style-type: none"> アクセシビリティ推進委員会の立ち上げ アクセシビリティ支援室の立ち上げ、専用部屋の新設、支援委員会での定期的な会合、月1回合同意見交換のケース会議 基本方針の決定と規程の整備、情報共有 バリアフリー化を進めるための委員会としての障がい学生支援委員会の立ち上げ、カウンセリング委員会での心の相談の対応 障がい者支援ワーキンググループの設置、障がい学生支援委員会規程と障がい学生支援に関する規程の整備、ワーキンググループ活動の委員会移行と解散、学生相談の随時対応 	<ul style="list-style-type: none"> インクルーシブ教育支援室の設置、各学科各教務課を中心に支援室がアシストを行う ガイドラインの作成、予算の確保などは策定中 体制作りの取組み中 時間をかけて体制整備、教職員の意識の高まり、精神障害学生への支援、診断のないグレーの人たちへの対応、スチューデント・ダイバーシティセンターの設置予定 障がいのある学生支援プロジェクトチーム会議、障がい学生支援協議会の発足、勤務時間の制限と教員との連携の困難、コンサルテーション段階での支援、一時休憩の支援、理解の促進やFDでの課題、予算の確保の難しさ 障がい等学生修学支援委員会の開催、受験生増加と学部学科の取組み、支援室のないキャンパスでの対応、次年度の予算請求 	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針の作成、研修や啓発活動の促進、教職員の有期雇用 対応要領の策定、所管課主導の体制、常勤職員配置、各部署に監督者配置と情報共有 対応要領の策定、障害者支援室の設置、一般施設利用者への対応、部署間での対応の格差、スタッフの兼務・教職員の障害者対応 サポートルームの創設、各学部の考えや方針の違い、合理的配慮提供までの書式、様式をそろえたガイドブックの作成、情報提供やHPの作成段階、3部署の連携体制、障害留学生への対応、1人に対応 対応要領・なんでも相談室・嘱託職員の設置、なんでも相談室規程や障害学生サポート委員会規程の制定、運用細則等の整備、発達障害学生の認識の薄さ、ガイドブックの年度内作成や啓発予定 障害学生支援委員会での情報共有、学生支援センターの立ち上げ、仕事の兼務 障害学生支援委員会の設置、学生相談委員会や学科会議での教員の共通理解 	<ul style="list-style-type: none"> 1人体制から複数スタッフ体制に、対応要領と様々なガイドブックの併用 ガイドラインや対応要領の作成中断、個々に集まって検討する形式 キャンパス自立支援室中心、総合支援センター委員会年5回会議、コーディネーターの契約、人に関する予算、コーディネーターと職員の知識の逆転現象 ガイドラインの制定と告知、支援室の組織上の明記、運営委員会の設置、専任職員の異動、ネットワーク形成と月1回の定例会議、コーディネーターの有期雇用 障害学生支援室の立ち上げ、支援室会議の設定、1年目のコーディネーターで運営、支援サポーターの不足 理解がない、支援センターの他センターとの統合後の方針策定、学生向けの広報の不十分、新システム導入時の運用方法、ガイドラインやフローの作成、予算減額と各部署とのけん制、支援の質の向上、大学院生の増加と予算 対応要領の駆け引き、小額の運営費、教員1人に対応、新入生の支援体制、英国留学生への支援、非常勤講師へのFD

カテゴリー	北海道	関東	中部	近畿
職員の任期・専門性	<ul style="list-style-type: none"> ・専任職員の不在 ・専任職員の不在状態 ・仕事の多さ、支援のグループ化と育成 		<ul style="list-style-type: none"> ・ノウハウの蓄積、引き継ぐ人の課題、人に依拠しないシステム構築 ・特任スタッフの対応困難 ・運営交付金と職員配置 	<ul style="list-style-type: none"> ・有期コーディネーターと障害学生の相談しにくさ
環境整備			<ul style="list-style-type: none"> ・常勤カウンセラー不在 ・受入準備時期の確保 	
トラブル	<ul style="list-style-type: none"> ・トラブル対策としての統一ルールの必要性 			
障害の範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・障害範囲の不明瞭性と対応の困難 			
教員の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の理解のばらつき、教員への周知活動 ・教職員の理解や研修参加率の低さ ・上層部の消極的対応 ・教員の理解不足FD研修の必要性 ・教員向けの研修 			
配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席時の評価の困難 ・相手方の理解不足 		<ul style="list-style-type: none"> ・入試時の情報共有 ・保護者との面談 	
不安	<ul style="list-style-type: none"> ・学内体制の方向性に対する不安 ・教職員の負担 ・申し出どおりに進んでいるかのチェック ・1人の教員の対応困難、教員支援体制 			
部局間連携		<ul style="list-style-type: none"> ・部局間連携が課題、相談員制度の開始 ・部局間連携で情報の共有、押し付け合い 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健管理センターのスタッフ会議との連携、ケースのシェアリング 	
予算		<ul style="list-style-type: none"> ・予算の根拠基盤 ・一般補助の対象、予算請求、本部との駆け引き ・予算の考え方、仕組み ・予算の細分化、予算の増加 ・予算申請状況と公開 ・学部研究課との共同支援、予算委員会時の繰越予算と交渉 ・予算の追加申請、担当部署への還元 ・補助金の申請、配分 		
根拠書類			<ul style="list-style-type: none"> ・配慮希望票の提出 ・申込書の提出 ・障害種別申請書、根拠資料、医療情報提供同意書の提出 ・手帳有無か診断書、グレーは専門家の所見の提出 ・配慮提供でのエビデンス書類の提出 ・問診票、配慮願の提出、面談で調整 	

5. 本調査について

カテゴリー	北海道	関東	中部	近畿
定義・分類	<ul style="list-style-type: none"> ・障害学生の定義 	<ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリーにはまらない ・部署での数字の差異 ・キャンパスによる差異 ・カテゴリーの分類 ・支援室と現場の情報との開き ・学習障害の基準 ・カテゴリーや支援のあてはめ ・精神障害の診断なし ・生活に制約を受ける程度とは 	<ul style="list-style-type: none"> ・よく分からない調査 ・JASSOの調査は適当 ・明確な定義の必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ・中身の定義の考え方 ・調査で出す数（診断書のある方、かつ、支援を申し込んだ方）と実際の数 ・複雑なカウント、数字のズレ
紛争解決事項	<ul style="list-style-type: none"> ・質問項目が良くて、規程に盛り込んだ 			
業務負担		<ul style="list-style-type: none"> ・業務負担（データの確認作業の時間） 		<ul style="list-style-type: none"> ・エクセルが使いにくい ・コピペできない ・調査票をやりやすいように変更
要望			<ul style="list-style-type: none"> ・入学前及び入学後に診断を受けた学生の数 ・データの開示 	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害の割合 ・ローデータの活用
調査目的			<ul style="list-style-type: none"> ・解析目的が不明 ・似たような調査がある 	
調査時期			<ul style="list-style-type: none"> ・総務と機構の依頼時期の違いからくる数のずれ ・調査時期 	
回答上の困難				<ul style="list-style-type: none"> ・保健管理センターなどが守秘義務で教えてくれない